

日本気象学会2023年度総会議事録

日時：2023年5月19日（金）16時00分～17時00分
場所：東京大学安田講堂（東京都文京区）（オンライン併用）

出席理事：橋田俊彦，青柳暁典，荒川知子，池上雅明，
 稲津 将，植田宏昭，榎本 剛，齋藤篤思，
 佐藤正樹，高谷康太郎，竹見哲也，竹村俊彦，
 坪木和久，中村 尚，橋本明弘，早坂忠裕，
 堀之内 武，三好建正，以上18名

出席監事：鈴木 靖，吉田 聡，以上2名

決議の要件と方法：決議は，定款第17条第1項により，
 総社員の議決権の3分の1以上を有する社員が出席し，出席社員の議決権の過半数をもって行う。出席社員とは，書面あるいは電磁的方法により参加票（議決権の行使と議決権の代理行使）を提出して事前に意思表示を行った者とし，そのうち，総会開催時に会場またはオンラインで参加した社員が，議決のためのオンライン投票において，事前にした参加票とは異なる意思表示をした場合は，その場での意思を優先して議決を行う。

出席者：個人会員の総会参加票による出席者数1,148票（個人会員現在総数3,144名（2023年4月7日現在））。

議 事

1. 開会

日本気象学会事務局より参加票の提出状況と決議の要件を満たしていることが報告され，総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

総会議長に小池 真会員（東京大学）を選出した。

3. 副理事長挨拶

2023年度定時社員総会にご出席いただき，感謝申し上げます。佐藤 薫理事長におかれては，ご母堂の葬儀のため総会に参加できなくなったことから，理事長から託のあった事項について，説明・報告する。

今回の社員総会は，オンライン参加の形態を導入して2回目の開催である。総会は，気象学会の運営など，定款に定める重要な事項の決議，会員の皆さまの貴重なご意見を伺うことができる大切な場であり機会であり，参加者の皆様によりしくお願い申し上げます。

5月16日から20日まで開催されている春季大会に

ついて，無事，円滑に開催されている。小池 真大会実行委員長，実行委員会（担当：東京大学大学院理学系研究科，東京大学先端科学技術研究センター，国立極地研究所，東京都立大学の各機関）の皆さま，講演企画委員会の皆さまのご尽力，そして，多くの参加者の皆さまに，感謝を申し上げる。参加者数は644名で，昨年と比べ64名の増加となっている。

次に，小倉義光先生が昨年5月29日に100歳でご逝去された。先生は学術・教育へご貢献とともに，気象学会に対して深い理解とご支援をいただいた。2017年に設立された「小倉義光・正子基金」は，「小倉特別講義」，「小倉奨励賞」をはじめ，気象学の教育及び普及・啓発活動に多大なるご支援をいただいている。この大会の開催前日には，「小倉義光先生追悼シンポジウム」も開催された。そのご功績を偲び心からご冥福をお祈り申し上げます。

機関誌の「天気」について，総会で，2024年1月からの電磁的方法による「天気」の配布への移行と，そのオンライン閲覧機能の強化についての検討状況を報告する。同時に，当面，「天気」冊子体を継続希望される会員の皆さまへの実費負担により冊子体の送付と，経過措置として終身会員の皆さまへの冊子体の無償配布も含む計画である。背景には，会員サービスの向上の観点と，同時に，物価高騰の影響への対応なども踏まえたものでもあり，ご理解と，また，検討内容へのご意見などをお願いする。

学会の対外的な広報活動の強化について，関連する委員会を担当する理事等によって検討を進め，本年3月の理事会での承認を経て，4月1日に広報委員会が設立された。この広報委員会は，学会の広報を担当し，従来の電子情報委員会の活動も引き継ぎ学会の情報基盤も担当する。広報委員長のもと，気象学会の活動の社会への周知・広報に努め，研究・学術の発展，連携協力の促進等に寄与していくこととしており，会員の皆さまのご理解とご協力をお願いする。

最後に，世界的なコロナ禍の影響で実施を見送っていた国際学術交流の動きについて，小倉義光・正子基金により，国際的に著名な研究者を招聘して開催する「小倉特別講義」の第3回を，本年2023年の秋季大会での開催を計画している。また，昨年11月

24日には、第3回の日中韓気象学会 ACM2022が中国気象学会のホストによりオンラインで開催され、参加者数は約100名、ライブ配信の視聴者は1000名以上であった。次回、日本がホストとなる第4回のACMは、来年2024年11月に気象学会秋季大会と隣接する日程で、つくばで開催予定である

以上、この1年の活動と、今後にむけた検討状況の概要の報告とする。

4. 2023年度総会議案

議案1：2022年度事業報告

池上理事から、研究会及び講演会等の開催と普及・啓発活動、機関誌等の刊行、研究業績の表彰等の事業報告があった。

議案に対する質疑はなかった。

議決にあたり、会場とオンラインの参加者に対して総会参加票による事前の意思表示の変更を確認する投票が行われた。参加票における議長委任に対して議長は議案に賛成であった。結果は、有効票は1,147票、賛成1,143票、反対2票、保留2票の賛成多数で、定款第17条第1項により承認された。

議案2：2022年度決算報告

齋藤理事から、公益法人会計基準に従った決算報告があった。また、事前に寄せられた意見への対応として、齋藤理事から会員数とそれに該当する会費収入年度の関係について補足があり、堀之内理事から気象集誌の投稿・掲載数の状況と投稿拡大への取組の説明と投稿募集への呼びかけがあった。

その他に議案に対する質疑はなかった。

議決にあたり、会場とオンラインの参加者に対して総会参加票による事前の意思表示の変更を確認する投票が行われた。参加票における議長委任に対して議長は議案に賛成であった。結果は、有効票は1,147票、賛成1,144票、反対1票、保留2票の賛成多数で、定款第17条第1項により承認された。

議案3：2022年度監査報告

鈴木監事から、帳簿類の管理、収支、事業執行状況と学会の運営状況に関する監査結果が報告された。2022年度の財務、事業の状況等を踏まえて、事業ごとの収支の会員への公開と学会をあげた財務の健全化に向けた議論の必要性、新型コロナウイルスへの対応のなかで検討された春季大会をオ

ンラインで秋季大会を現地開催でという方針について大会を運営する各支部との意思疎通が不十分なまま決定された面があり理事会と会員とのコミュニケーションのあり方について改善の余地が残ることなどの指摘があった。

これを受けて、橋田副理事長から監事の指摘事項について理事会として検討していくという発言が、青柳理事からは本議案に対して事前に寄せられた「天気」に関連する会員サービスの内容（会員向け情報提供の速報性、記事共有のためのサーバー機能強化など）の補足説明があった。その他に議案に対する質疑はなかった。

議決にあたり、会場とオンラインの参加者に対して総会参加票による事前の意思表示の変更を確認する投票が行われた。参加票における議長委任に対して議長は議案に賛成であった。結果は、有効票は1,147票、賛成1,145票、反対1票、保留1票の賛成多数で、定款第17条第1項により承認された。

5. 2023年度総会報告事項

報告1：2023年度事業計画

池上理事から、従来の事業を継続して実施することに加え、「小倉特別講義」の第3回講義を秋季大会（仙台市）で行うこと、電子情報委員会は広報委員会に改組され、気象学会活動の社会への周知・広報に努め、研究・学術の発展、連携協力の促進等に寄与していくとの説明があった。次に青柳理事から機関誌「天気」の電磁的方法による配布への移行とオンライン閲覧機能の強化について、事前に会員から寄せられた意見への対応も含め説明があった。榎本理事から広報委員会の活動について補足説明があった。また、橋田理事長から、「天気」の事業計画は総会の議案とすべきとの意見が事前に会員からあったことに関して、定款に基づく決議のための議案に位置付けることはできず報告としているが、いただいたご意見を十分に踏まえて事業計画を進めていくとの発言があった。

報告に対する質疑はなかった。

報告2：2023年度収支予算

齋藤理事から、公益法人会計基準及び2021年度の実績に従って予算を組み、受取会費を公益目的の事業会計と法人会計に2022年度と同じ割合で配分した予算額についての説明があった。報告に対する質疑はなかった。

その他：

総会の参加者から事前にあった意見等に関して、橋本理事からは大会の運営について秋季大会の口頭セッションのハイブリッド化は難しいこと、JpGUとの統合は、学会全体の将来構想と共に検討すべき課題であるとの回答と説明があった。橋田副理事長からは総会の録画配信に関する課題と、公益法人では事業計画と収支予算が議案ではなく報告事項とされている理由の説明があった。

議長から、総会へ会員からいただいた質問、意見に対しては、本日総会で回答された内容を含め、気象学会の会員サイトで回答がなされることが確認された。

6. 議事録署名人の氏名

議事録署名人に富川喜弘会員（国立極地研究所）

と高麗正史会員（東京大学）を指名したところ、異議なく承認された。

7. 議長解任

小池議長により、総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨の挨拶があり、議長は解任された。

8. 閉会

池上理事により総会の閉会が宣言された。

以上の議事録の通り相違ありません。

2023年6月2日

総会議長	小池真
出席者代表	富川喜弘
出席者代表	高麗正史